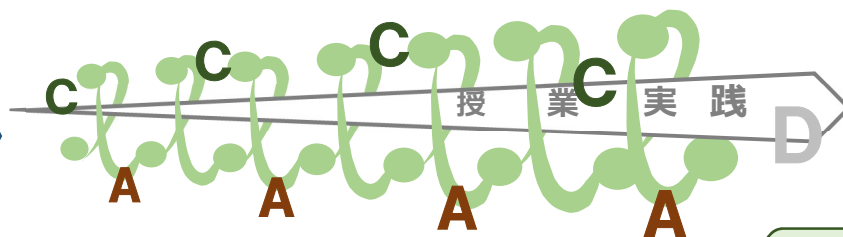


P 指導計画
終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

児童の
つぶやきや
様相から Check!



「友だちはどうしているかな」
「そんな表し方（見方）もあるのか」

□Check3

・困ったときには、友だちの活動や作品を自由に見たり、友だちに相談したりしながら製作しているか

「身近な材料でこんなことができたぞ」
「家でもやってみたいな」

□Check6

・学んだことを生活や社会で生かしたい（生かされている）と感じているか

「〇〇な感じを表すことができたぞ」
「いろいろな見方ができて楽しかったな」

□Check5

・活動を振り返り、自分や友だちの表現または見方や感じ方のよさを味わっているか

「こうすればできそうだ」

□Check2

・活動の過程や出口をイメージし、見通しをもつことができたか

「これはどうかな」
「これもやってみよう」

□Check4

・表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択しながら、試し求めているか

「〇〇を描き（作り）たいな」
「すてきだ（面白い）な」

□Check1

・表したいことを見つけているか
・作品など対象のよさや面白さを感じているか

A 授業改善のポイント

創造性（新しいものを生み出す力）を大切にする図画工作科では、特に **Check 4** の意識や姿が重要です。発想が行き詰った時こそ、さらに自ら新しい表現を求める姿を生み出すことで深い学びとなります。

そうした姿を生み出すために、まずは題材の導入で、教師の示範作品などを見せながら **Check 2** の意識や姿を生み出します。その時も、示範作品よりも面白いものを考え、新しいものを創り出すことのねうちと楽しさを伝えることが大切です。

☞ 1（1） 表したいことを見つけるためには

・生活体験の他、材料や用具、表現方法から自分の表したいもの（高学年は主題）を見つけさせることが大切です。

☞ 1（2） 対象のよさや面白さを感じるためには

・視点を示したり、児童が見つけた視点を価値付けたりすることで見方・感じ方を広げることができます。

☞ 2 見通しをもつためには

・「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、面白いものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させることができます。

・資料だけでなく教師の示範によって、製作のイメージをつかませることが大切です。

・「ポーズ」や「色」「背景」など造形の要素で工夫のポイントを示すことが大切です。

☞ 3 困ったときに、友だちの活動や作品を自由に見たり、友だちに相談したりするためには

・班隊形で活動（表現）することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができます。

・「作品を転がして形や色を確かめる坂を教室の中央に一つ準備する」「製作途中の帽子をかぶって確かめる鏡を一枚だけ準備する」など、児童が試し確かめる中で自然な交流が生まれ、互いの表現のよさを学び合う場を設定することが大切です。

・毎時間ではなく、児童が「表したいことを十分表したり、自分の見方で十分鑑賞したりしたとき」または「どうしたらいいか困っているとき」などには、児童の必要感を捉えて友だちと交流する時間をとることが有効です。

☞ 4 表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択しながら、試し求めるためには

・材料（素材）や用具の特徴やよさを十分感じ取ることができるよう、材料（素材）や用具に十分触れたり、試したりできる時間の設定や、コーナーの設置をすることが大切です。

☞ 5 自分や友だちの表現または見方や感じ方のよさを味わうためには

・例えば、前時までの作品をデジタルカメラなどで保存しておき比べて見ることで、表現の変容を実感させることができます。また、何をやったかだけでなく、どのような感じになったのかまで感じ取らせることが大切です。

・うまくいかなかった場合も、壊してつくりなおす姿を価値付け、「つくり、つくりかえ、つくる」ことでよりよいものより楽しいものができることを実感させることが大切です。

☞ 6 学んだことを生活や社会で生かしたいと感じるためには

・身近な材料や用具を用いたり、それらを保護者の協力を得ながら児童に準備させたりする。また、作品等を生活の中で使う、プレゼントするなどの出口を設定することが大切です。



ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの同僚の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。